

IT (Information Technology) を 活用した 経営モデル革新 トータルソリューション

将来の経営基盤となる業務・システムに関して
基本構想策定から設計
業務改革実施／システム構築まで
トータルにコーディネートする
サポートサービスをご提供致します



日本総研
The Japan Research Institute, Limited

なぜ今、経営モデル革新が必要なのか

日本的経営に求められる革命的な出直し

デフレ経済下の厳しい経済環境の中で、日本的経営すなわち日本企業が抱える曖昧、かつスピード感の欠如した経営に対し、革命的な出直しが求められています。

経営モデル革新－普遍的に有効な経営モデルの追求

企業はPLAN(計画)－DO(実行)－SEE(評価)というマネジメントサイクルを如何に迅速かつ効果的にまわしていくかが重要ですが、その前提として、マネジメント自体の信頼性を担保するコーポレートガバナンス及び各組織、業務をいかに牽制し、モニタリングしていくかという内部監査の仕組みの構築が重要となります。

さらに、曖昧な経営を脱却し、より客観的に説明可能な経営を行っていくために、各種管理会計の仕組みを導入することも喫緊の課題であるといえるでしょう。企業戦略は業種や個々の企業によって、またその時代云々で異なることは当然であるとしても、普遍的に有効な経営モデル－信頼性、客観性、効率性を備えたマネジメントサイクルを実現する経営の仕組みは存在するのです。

ITの有効活用－経営モデルを支えるプラットフォームとしてのERPの活用

経営を支えるITの重要性は徐々に認識されており、我が国でもERPの導入が盛んに行われています。今や経営モデルを支えるプラットフォームとしてのERPパッケージの利用は一般的といえるでしょう。しかしながら、ERPパッケージの導入自体が目的化しており、ERPのもつ本来の思想、すなわちマネジメントサイクルを有効に機能させるという観点から見たとき、未だ十分に活用されていない実状があります。

経営モデル革新のフレームワーク

信頼性のある経営モデルの確立

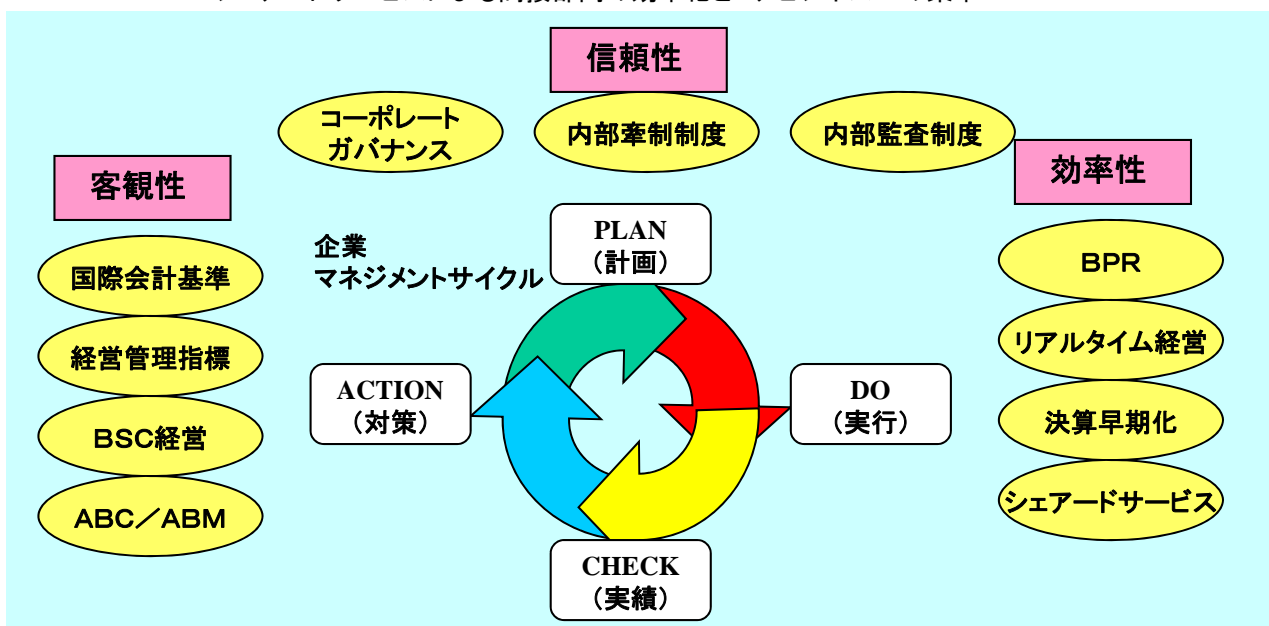
- ・コーポレートガバナンスによるマネジメントの信頼性を担保
- ・モニタリング手法としての内部牽制、内部監査制度の構築

客観的な経営モデルの確立

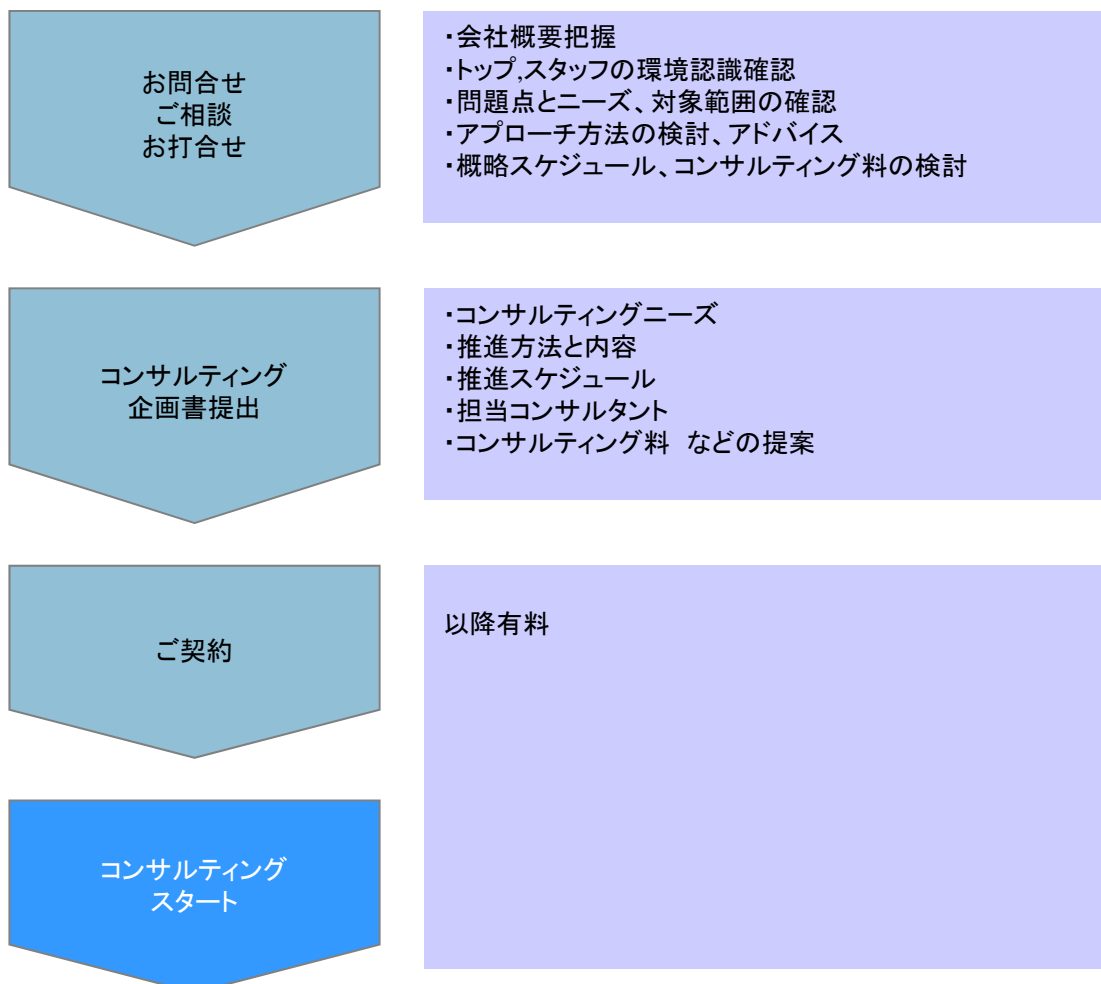
- ・国際会計基準の適用
- ・客観的な評価指標としての望ましい経営管理指標の選択
- ・先行指標、複合指標としてのバランススコアカード経営(BSC経営)
- ・間接業務改革のためのアクティビティベースドマネジメント(ABC/ABM)

効率的な経営モデルの確立

- ・ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)による効率経営の追求
- ・リアルタイム経営、決算早期化によるスピード経営
- ・シェアードサービスによる間接部門の効率化とコアビジネスへの集中



コンサルティング開始までの手順概略



お問合せは

株式会社 日本総合研究所 総合研究部門
経営コンサルティング部(東京)
rcdweb@ml.jri.co.jp